

## 第3章

# 館林市水と緑のフードバレー・スマートシティ構想

## 日本は21世紀の農業・食品大国を目指す

日本のフードバレー・プロジェクトは、Society5.0のシンボル事業であり、東京オリンピック・パラリンピックと大阪万国博覧会に次ぐ3番目の国家的ビッグプロジェクトになる。

「たてばやし大学UR」を中核とした「フードバレー館林」が日本の農業革命に貢献する、そして日本が21世紀において世界有数の農業・食品大国になるということがこのプロジェクトの目的であり、成果である。

アジア、アフリカおよび南アメリカの経済的近代化が着実に進行している。先端農業技術、スマート・フードシステム、ブランド農産物、ニューテクノロジー食品および健康機能性食品の巨大な市場がアメリカ、ヨーロッパ連合 (EU) 市場以外にも急速に拡大している。もはやアメリカ・EU地域だけでなく様々な地域において経済発展レベルに応じた新市場が次々と創発している。

## 西のワーヘニンゲン大学と 東のシン・タテバヤシ大学

「フードバレー館林」が21世紀における日本の産業政策・Society5.0のシンボルとして創造・建設される。その集積効果として、世界的競争力をもつ農業技術・食品R&D・健康医療産業が創出されるということが21世紀の日本の喫緊の課題である。西のオランダ・ワーヘニンゲン大学UR、東の日本・たてばやし大学URが世界の農業・食品分野の科学・技術・産業をリードしていく。この課題が達成されたとき、日本の農業革命は成功したと言える。その成果によって「フードバレー館林」は日本における企業・産業史と科学・教育史におけるレガシーになる。

## スマートシティ産業と大学フードバレー産業の融合

「スマートシティ」を都市デジタル・プラットフォームとした「農業・食品・福祉の統合ネットワーク産業クラスター・エコシステム」と「たてばやし大学UR+農業・食品・健康・医療R&D産業クラスター・エコシステム」の融合が、産業・経済の視点からは「水と緑のフードバレー・スマートシティ館林」であり、政治・行政の視点からは「たてばやし未来農業科学都市」であり、文化・歴史の視点からは「水と生きる田園公園都市たてばやし」である。「たてばやし大学UR」を中核とした「フードバレー館林」を創造・建設することは、日本の国家プロジェクトである。そのためには、館林市が隣接する5町との合併を目指しながら、「スマートシティ」プロジェクトをスタートアップし、「農業・食品・福祉の統合ネットワーク産業」プロジェクトを推進する。館林市の、そして館林広域圏の公・民・学連携が、この2つのプロジェクトを地方創生・まちづくり・地方活性化プロジェクトとして全地域の住民とともに取り組むとき、「フードバレー館林」プロジェクトは国に認められると考える。

## 世界最先端の集積地に集う若者たち シン・タテバヤシのプロになれ！

農業・食品・健康・医療の分野における世界最先端の「知識」と「技術」、そして「資本」の集積地、すなわち「水と緑のフードバレー・スマートシティ館林」が、たゆまぬイノベーションとクリエイションを生み出している。これこそが「先端のまち」館林市の将来ビジョンである。

世界の若者よ、野心をもってここに集え！